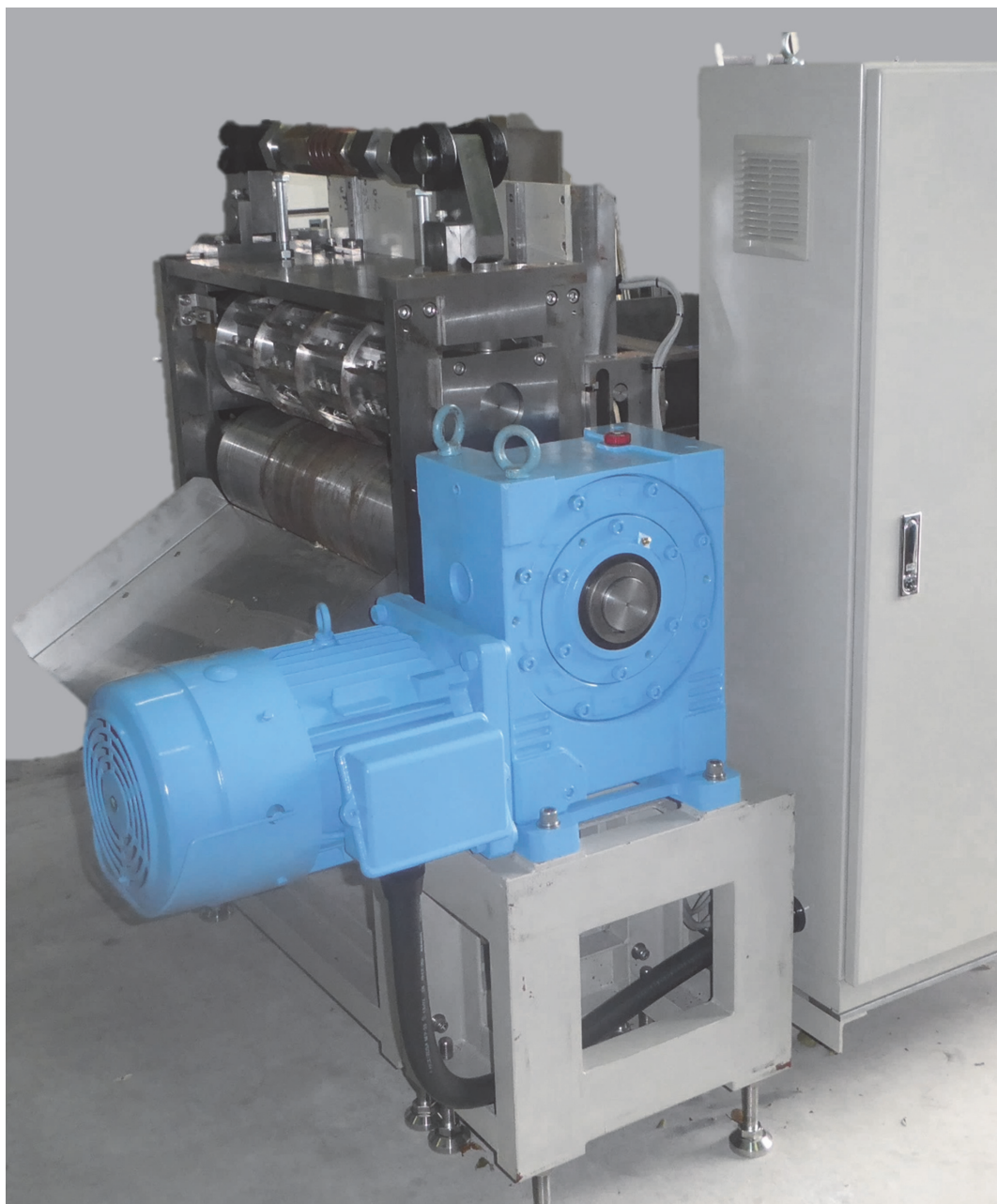


知的創造型ものづくりへの挑戦



竹チップ作製装置全景

竹からエコ未来を創り出す



阿南高専発ベンチャー企業として8年前に創業しました。「地域資源を活用し、環境技術革新を通じて地域の活性化に貢献」を企業理念として、「知的創造型ものづくりへの挑戦」を経営スローガンに、今までにない革新的な技術を駆使して、未利用資源から価値を創造し、環境技術の分野で地域の活性化に寄与していきます。

株式会社
バンブーケミカル研究所

〒774-0017

徳島県阿南市見能林町青木265-1

高専内 阿南市インキュベーションセンター

TEL (0884) 49-4234 FAX (0884) 49-4234

竹素材を有効利用する竹粉、竹チップ作製装置の開発

1. 取組の経緯

近年、バイオマス材料の利活用が急速に注目されており、木質チップ材料は品薄状態で価格も高騰している。そんな中、竹材は未管理の竹林による里山の荒廃が進むなど、有効な利活用が求められている。竹を粉状にした「竹粉」は樹脂成形品等の工業製品に広く利用でき、チップ状の「竹チップ」はバイオマス燃料としての利用が期待できる。

平成24年度補助事業で安価な竹粉の一次、二次加工機の開発に取り組み、平成25年度補助事業により工業目的の竹粉用として「自動竹粉高速加工・乾燥・分級一貫システム」を開発。平成28年度補助事業ではバイオマス燃料用として「竹チップ作製装置」を完成させることができた。



竹チップ作製装置



竹チップ

2. 実施内容

バイオマス燃料としての竹は、木材より、熱量において約2割増で、また成竹までの期間では約3年と短く、優位性を持つ。本装置の実用化により品薄状態の木質燃料の補完となるだけでなく、竹バイオマスボイラーや竹バイオマス発電分野への利用の促進が期待できる。

インタビュー

この人に聞きました

開発には多大な費用を要するため補助金が大いに役立ちました。新たに開発した回転押切り工法は、竹チップ加工時の甲高い爆音を解決しただけでなく、チップ加工の作業環境を大幅に改善し、高い生産性も併せて実現しました。今後、竹の用途が工業用・バイオマス燃料として拡大することを期待しています。



代表取締役 鶴羽 正幸 氏

- 株式会社 バンブーケミカル研究所 代表取締役 鶴羽 正幸
- ホームページ／<http://wwwa.pikara.ne.jp/bamboo906/>
- 設立年月日／平成22年10月 ●資本金／600万円 ●業種／製造業 ●従業員数／数名

